



笛吹川の鶺鴒伝説



笛吹川の鶺鴒伝説は、今から800年前にさかのぼります。

口承によると、鶺鴒勘作(平大納言時忠)が平家が壇ノ浦に滅びた後、石和へ逃れ来て住み着き、公卿時代に遊びで覚えた「鶺鴒」を生業としていたと言われていいます。

謡曲「鶺鴒」でも語られており、謡曲愛好家、歴史学者等の間では良く知られています。

笛吹川の鶺鴒



笛吹川の鶺鴒は、由緒ある伝説を後世に伝えるため、また、観光資源に乏しい石和の風物詩として定着させるため、昭和51年に漁業協同組合の協力を得て復活されました。

笛吹川石和鶺鴒の特徴は「徒歩鶺」といわれ、鶺鴒使いが直接川に入って漁を行うもので、全国的にもとても珍しい形です。

笛吹川石和鶺鴒保存会結成



2005.7.21 放送

笛吹市の合併を期に平成17年4月に笛吹川石和鶺鴒保存会を結成いたしました。

当時のメンバーは、社会人9名、高校生8名の合わせて17名の有志で構成。

社会人9名は、高校時代から鶺鴒補助を行い、現在も鶺鴒匠として活躍しているベテランです。

現在は、社会人17名で構成しています。

笛吹川石和鶺飼保存会の活動

- 鶺小屋清掃
- 日除けネット設置 及び撤去
- 鶺飼実演
- 鶺匠体験の実施
- 視察研修
- 全国鶺飼サミット 参加
- 鶺供養
- 伝承者の確保
- 鶺飼のPR

鶺小屋清掃



年間3から4回鶺小屋の清掃を実施。

全員が社会人であることから休日に設定。

なかなか、全員が参加することは難しい状況です。

日除けネット設置 及び撤去



毎年5月頃に鶺小屋にネットを設置を行い、9月頃にはネットを撤去します。

夏の暑さを少しでも緩和させるため、小屋の上に登り作業します。

鶺小屋が古いこともあり、作業は危険を伴います。

鶺飼実演



歴史的遺産を現在に再現し、観光資源の充実と地域文化の伝承を目的として、毎年7月20日から8月19日までの水、木、土、日に鶺飼の実演を実施しています。

今年は、来年開催の国民文化祭で新しい試みとして、身近で鶺飼を観ていただくため、仮設プールでの練習を実施いたしました。

プールの周りには人盛りが出来、とても好評でした。

鵜匠体験の実施



笛吹市の夏の風物詩「笛吹川石和鵜飼」の観光事業として、鵜匠体験を実施し、鵜匠とのふれあいや日常の生活では体験することのできない希少価値の高い着地型観光事業として定着させていくことを目的に、毎回2名限定にて体験をしていただいています。

鵜匠と同じ格好をして、実際に鵜を操ることが出来ることから、体験者からは大変好評です。

視察研修



鵜捕獲場所等を視察及び県外の鵜飼関係者に接することにより、知識や技術の習得など鵜匠として必要な資質を養い、鵜飼実演の技術向上を目指すとともに、鵜匠間の連携を深めるため視察研修を実施しています。

今年は、日立市十王町の鵜取り場等の視察とウミウ捕獲技術者等との交流を行いました。

日立市 鵜取場及び鵜発送作業視察

全国鵜飼サミット 参加



山口県 岩国大会

全国の鵜飼関係者が一堂に会するサミットに参加し、伝統漁法である「鵜飼」を文化として保存継承し、観光資源として発展させるため、鵜飼事業の現状と課題について情報及び意見交換を行い、将来に向けた鵜飼事業の振興につなげていく。

鵜供養



笛吹川の鵜飼で活躍し、鵜飼伝承を共に行ってきた鵜の供養をするため、毎年鵜飼終了後の日曜日に鵜供養を実施しています。

鵜飼山遠妙寺の鵜供養塔前にて、亡くなった鵜の羽根を燃やし、灰を供養塔に安置後、住職の読経の中、一人ずつ焼香を行います。

伝承者の確保



毎年、地元の高校生に
鵜匠補助を依頼しています。

このことは、歴史的文化
である鵜飼の鵜匠補助及
び準備を行うことで、実演
することへの責任及び鵜飼
への愛着を持っていただき、
更には地域文化の伝承に
つなげていくことを目的とし
ています。

鵜飼のPR



笛吹川石和鵜飼を広く
PRすることを目的にオリ
ジナルTシャツを作成し、
鵜飼開催期間中は鵜飼
関係者はTシャツを着用し
ています。

また、鵜飼開催日には
一般の方への販売も行っ
ています。

ポスターの作成



現役の鴉匠及び高校生の鴉匠補助をポスターに使用することで、鴉飼をすることへのテンションを高める効果となっている。

中には、来年は俺がポスターを飾ってやると意気込む鴉匠もいます。

鴉小屋の建設経緯



昭和51年の当初は、観光課職員が飼育していましたが、途中で飼育が出来なくなりました。それを受け、当時錦鯉組合に鴉小屋建設の協力依頼をいたしました。結局受けてくれる人が居なかったため当時の組合長であった小田切氏が引き受けることとなりました。当時使用中であった、鯉の養殖場の一部を鴉小屋に改造し、現在に引き継がれています。

鶺鴒の飼育管理



現在は初代小田切氏の息子さんに引き続き飼育を行っていただいています。

毎日、鶺鴒の健康状態、鶺鴒小屋の状況及び水槽の状況を確認しています。

特に、餌である魚の良し悪しを確認することと餌の量に気を使っているとのこと。

現在14羽を飼育しています。

今後の課題

現在、鶺鴒匠全員で体が動く限りは鶺鴒匠を続けて行くことを誓い合っています。

しかし、夏場と言えども川の中に40分近く入っていることは体力的にかなりきついものです。高齢になればなるほど体への負担は大きくなってきます。

また、全員が社会人であり、それぞれ仕事をもっていることから、鶺鴒飼実演に全員が参加することが出来ないのが現実です。

このような状況の中、詩情豊かで、幻想的なこの鶺鴒飼を、古い歴史や伝統を語る催しとして、仕事と両立する中で如何に保存伝承していくかが課題となっています。